

城里町の文化財さんぽ(三八)

町指定文化財(彫刻)

もくそう(三三)さんぽ(三三)さんぽ(三三)

「木造降三世明王像」

指定年月日/平成一六年五月七日

所在地/城里町那珂西

管理・所有者/宝幢院



降三世明王は、大日如来に最後まで反抗し、教えに従わなかった大自在天(ヒンドウー教の最高神で、前世・現世・来世の三世の主とされるシヴァ神)とその後の烏摩を足で踏みつけて降伏し、改心させたという強力な明王で、降三世という名称も三世の主シヴァ神を降伏したことに由来します。その姿は、自らが降伏したシヴァ神に酷似するとされており、仏像は一般的に、四面八臂、黒色、本手を降三世印(両手を交差させて両小指を鉤にしてかける)に結び、脇

手に弓や杵等の武器を持ち、左足で大自在天を、右足で烏摩を踏みつけ、火焰を背にして立つ姿に造られます。

町指定文化財「木造降三世明王像」は、寄木造、四面八臂の立像で、像高は八七センチメートルです。正面と左右脇面は三眼、裏面は二眼で、正面にのみ玉眼が入っています。

脇手六本は破損し、持物も光背も失い、彩色も剥落しています。胸前に降三世印を結び、忿怒の形相で大自在天と烏摩を踏みつける姿からは、明王らしい力強さが感じられます。

本像の製作年代は鎌倉時代末期とされ、右足下には「明王□圓作之」の墨書が認められます。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一
問合せ 教育委員会事務局
029-288-3135

俳句

柔肌に菖蒲の葉先浮き沈み 鯉淵 寿美恵
紫陽花の藍深まりて婚の朝 今瀬 多代美
生き生さと鎌研ぐ母や水温む 森 静江
けもの道谷の山葵田花ざかり 仲田 まちゑ
つば広の夏帽かぶり応援歌 綿引 英子
麦秋や四方は水の満満田 中野 千賀子

文芸しろさと

短歌

娘に頼みたれば「ハイヨ」と返事 ありほつと安心ありがとさんね 山形 式妙
十ヶ所の住居をかえての九十歳平穏無事の有がたきかな 杉山 みちこ
幼児は園児となりて変身すりゅッくに水筒身体にまとひゐて 大森 久子
穏やかに春の日は暮れ事もなく我も生きたり山は夕焼け 渡辺 千紗子
ひと日づつ一日づつ陽が伸びてきて夕餉支度も忙しさはなく 所 美恵子

広々と田植の準備一人きり 飯村 昭子

門柱にふたつの名字薔薇の花 竹内 幸子

部屋に風ひらりと母の麻衣 瀬谷 博子

いたどりの花高々とわが生地 田口 勝元

万緑や下校の子らのはしやぐ声 寺門 孝子

やさしさをいっぱい残し逝きし息子の面うかべつつ墓の草ぬく 枝 不美

あじさいの樹下に咲ける紫のみやこわすれに遠き日恋ふる 島 愛子

青空にグランドゴルフの夏帽子和気藹々と「ナイスショット」 信田 育子

進学のにに女孫を訪ねれば希望を胸に準備整う 萩谷 登喜子

緑陰に踊る木もれ陽濃く淡く亡母と歩みし湯滝のほとり 富田 佐智子
満開の桜の下に車寄せ桜吹雪に至福のときを 蘭部 光子

川柳

呆けもよし苦無く生きたいこの時世 富田 多蔵
アヤメ園昔は娘船頭さん 車田 綾子
青空やリレーのテープ孫が切る 飯村 孝一



母の日に婆さんなのに花とどく毎年とどく嫁の愛情 富田 欽子